

第4回 新五流総フォローアップ委員会 議事概要

新五流総フォローアップ委員会事務局

日時：平成21年11月20日（金）9：30～12：00

場所：岐阜県庁 9北2会議室

1. 議事

- ①揖斐川流域における総合的な治水対策プランについて
- ②宮川流域における総合的な治水対策プランについて
- ③長良川中上流域における総合的な治水対策プランについて
- ④長良川中流支川流域における総合的な治水対策プランについて
- ⑤木曾・飛騨川流域における総合的な治水対策プランについて
- ⑥土岐川流域における総合的な治水対策プランについて

2. 議事要旨

①揖斐川流域における総合的な治水対策プランについて

- ・水門川流域の開発規模別の流域対策量については、境川流域と同程度で設定してあるのか。
→0.1～1.0haについては500m³/haと同じ対策量を設定しています。1.0ha以上については、宅地開発指導要綱に基づく対策量を基本に設定しています。
- ・垂井町のハザードマップを作成する上で、避難経路などをどのように表示したのか。
→ハザードマップでは、おおまかな避難する方向を表示しています。
- ・ハザードマップについては、状況の変化や災害などを踏まえて、適宜修正していく取り組みが必要である。
- ・河川管理者が主体的に貯留施設などの調整を行い、流域全体で浸水被害を軽減していく取り組みを、他県なども含めて議論を深めていく。
- ・水門川の流域整備計画については、計画で定められたことが適切に実施されているかを、フォローしていく必要がある。

②宮川流域における総合的な治水対策プランについて

- ・宮川災害助成事業の完了を受けて、ハザードマップの見直しはどのような状況か。
→飛騨市については、今年度修正を実施しており、高山市については、今後土砂災害防止法の特別警戒区域等を含めて修正する予定です。
- ・ビニールハウスが河川に及ぼしている影響とはどのようなことを想定しているのか。
→江名子川流域において、東部開発等ビニールハウスの影響により河川への流出量が増加してきている。
- ・流出増を抑える取り組みについては、早期にその枠組みを検討する必要がある。
- ・ハザードマップについて、山間部では、洪水だけではなく、土砂災害に関する情報も必要である。多くの情報を入れると情報過多となるため、危険度をランク分けするなど、避難に必要な適切な情報を入れる必要がある。

③長良川中上流域における総合的な治水対策プランについて

- ・長良川の立花工区における長良川鉄道の橋脚についてはどのような検討をしているか。
→長良川鉄道は現状のままとし、道路の嵩上げで計画流量を安全に流下させることとされています。また、水位を低下させるために、長良川鉄道上流部分の竹藪の伐採を検討しています。

④長良川中流支川流域における総合的な治水対策プランについて

- ・水防団と合同で巡視を行い、情報共有するのは良い取り組みである。
→水防団の方が持ってみえる情報を含め、現在作成している維持管理計画を充実させようと考えています。
- ・重要水防箇所については、今後どのようにハード的にも対応していくのかを含めて検討すると、住民などにも理解されやすいのではないか。
- ・水防団や地元の方などが、実際に使いやすいような重要水防箇所の位置図などを作成したほうがよい。
- ・堤防の側帯などに、水防活動時に役立つ石などを蓄えておくことも検討したらどうか。

⑤木曾・飛騨川流域における総合的な治水対策プランについて

- ・飛騨川の統合環境整備事業については、活用状況や効果などを検証していくなど、適切なフォローアップも必要である。
- ・子供たちが利用しやすい水辺の整備について、安全性を確認しながら進入路の整備など簡易に出来る手法を検討し、県下全域で取り組んでいく必要がある。

⑥土岐川流域における総合的な治水対策プランについて

- ・土岐川では分かりやすい量水標を設置しているか。
→現時点では設置していません。恵那土木管内では、陸閘の操作のために近くの橋脚などに量水標を設置することを検討しています。

⑦その他

- ・CCTV の画面の中に、特別警戒水位などの情報を入れたらどれくらい危険な状況かが分かりやすいのではないか。